



みどり豊かな 住まいのみやこ

杉並区

面積	34.06km ²
世帯数	332,091世帯
人口	574,841人
(うち外国人)	19,792人
予算	2,229億円
職員数	3,583人



杉並区公式アニメキャラクター「なみすけ」



東京高円寺阿波おどり

毎年8月最終土・日の2日間開催しています。毎年、1万人の踊り手と100万人の観客の歓声が街にこだまします。



阿佐谷七夕まつり

毎年8月上旬開催。JR阿佐谷駅南口の700mの商店街「阿佐谷パルセンター」を中心に駅周辺商店街を会場として行われます。



阿佐谷ジャズストリート

第一線で活躍するプロから地元の子どものバンドまでが登場し、阿佐谷のまち全体がジャズであふれかえります。

歴史・見所・名所

杉並区の地名の由来は、江戸時代初期に青梅街道脇に植えられた杉並木に始まるとされ、明治22(1889)年に高円寺・馬橋・阿佐ヶ谷・天沼・田端・成宗の6つの村が合併した際、この「杉並」の名を新しい村名として採用したことによります。昭和7(1932)年には、杉並町・井荻町・和田堀町・高井戸町が合併し東京市杉並区が誕生しました。

近世以降は、江戸の近郊農村の様相を濃くしていましたが、関東大震災後、東京の近郊住宅地として人口が急増し、井伏鱒二などの文人や軍人、学者、ジャーナリストなどが多く移り住みました。

区内には、江戸時代から「堀之内のお祖師様」として親しまれている妙法寺、今川家累代の墓がある観泉寺、高円寺の地名の由来である高円寺、流鏑馬が行われる井草八幡宮などの名所旧跡があります。

また毎年、東京の代表的な夏祭りの一つである東京高円寺阿波おどりのほか、阿佐谷七夕まつり、阿佐谷ジャズストリート、荻窪音楽祭、久我山ホテル祭りなどが開催されています。

概要

杉並区は、都心に近い住宅都市として早くから開発が進み、都市計画に見る用途地域でも住居系が約85%を占めています。区民の定住意向は高く、近年、民間企業が実施している住みやすさや住んでみた街などの各種調査結果では、区内の各地域が高く評価され、上位に選ばれることが多くなっています。

また、市街地の拡大等により農地面積は減少する一方、第三次産業の従事者が増えており、練馬区と隣接する地域は、アニメ制作会社の集積地となっています。

比較的緑が多い印象のある杉並区も、都市化の進行により緑被率が減少していましたが、平成19(2007)年以降は23区の中でも高い数値である21%後半から22%前半の間を維持しています。区の東西に流れる善福寺川や神田川などの周辺には遊歩道や大きな公園等が整備され、区民の憩いの場となっています。

区の人口は、昭和50(1975)年をピークとして減少に転じました。その後、増減を繰り返した後、近年は若年層を中心とした転入超過により、人口は増加傾向にあります。

区では、平成15(2003)年、「杉並区自治基本条例」を全国に先駆けて制定し、区民と行政が役割と責任を分かち合い協働する自治のまちの実現に向け取り組んできました。

また、令和3(2021)年10月には、平成24(2012)年に策定した基本構想が終期を迎えることから、区民や区内関係団体、学識経験者、区議会議員からなる基本構想審議会の議論の下、区が目指すまちの姿を「みどり豊かな 住まいのみやこ」とした新たな基本構想を策定しました。

さらに、新たな基本構想の実現を目指すための具体的な道筋として、令和4(2022)年1月に新たな総合計画及び実行計画等を策定し、時代や環境の変化に対応した区政を推進しています。

主要課題・将来展望

【基本構想】

(1) 杉並区が目指すおおむね10年後のまちの姿

『みどり豊かな 住まいのみやこ』※

※「みやこ」という言葉には、「代表的なまち」や、「中央政府のある都市(首都)」という意味のほか、「何らかの特徴を持ち、人が集まり楽しく暮らせる土地」という意味があります。杉並区を特徴づける「住宅都市」というイメージをさらに発展させ、区民とともに良好な環境を育み、住まいのまちとしての新たな価値を生み出していく、という意味合いを込め「住まいのみやこ」と表現しました。

(2) 分野ごとの将来像

【防災・防犯】 みんなでつくる、災害に強く、犯罪を生まないまち

区民一人ひとりが高い防災・防犯意識を持ち、みんなで支え合い、誰もが安心して住み続けられるまちをめざします。

【まちづくり・地域産業】 多様な魅力と交流が生まれ、にぎわいのある快適なまち

駅を中心とした周辺地域にまちの多様な魅力と交流・活力を創出するとともに、地域に根ざした産業を支援し、区民はもとより、来街者を含めて、誰にとっても居心地がよく、にぎわいがあふれ、出かけたくなるまちをめざします。

【環境・みどり】 気候危機に立ち向かい、みどりあふれる良好な環境を将来につなぐまち

世界的な課題である気候危機への対応のみならず、様々な環境問題に地域全体で取り組むことで、持続可能で質の高い、みどりあふれる良好な環境を将来世代に引き継いでいくことができるまちをめざします。

【健康・医療】 「人生100年時代」を自分らしく健やかに生きることができるまち

健康長寿社会に向かう中、住み慣れた地域で、誰もが自分らしく、いきいきと安心して健康に暮らし続けられるまちをめざします。

【福祉・地域共生】 すべての人が認め合い、支え・支えられながら共生するまち

世代の差や障害の有無などにかかわらず、支援する側と支援される側の関係を超え、すべての人がお互いに認め合いながら共生できる社会づくりを進めます。

【子ども】 すべての子どもが、自分らしく生きていくことができるまち

子どもたちが、家庭や地域でその権利を守られ、様々な経験を通して未来をつくる力を育むまち、子どもと家庭を地域社会全体で支えるまちをめざします。

【学び】 共に認め合い、みんなでつくる学びのまち

区民一人ひとりが共に認め合い、希望を実現することの楽しさを実感しながら、学び合い、教え合うことのできるまちをめざします。

【文化・スポーツ】 文化を育み継承し、スポーツに親しむことのできるまち

子どもから高齢者まで障害の有無等にかかわらず、誰もが気軽に文化・スポーツに触れることができ、それらの活動が多世代交流や健康づくり・仲間づくりにもつながるまちをめざします。

【自治体間連携の取組】

区では、東日本大震災を機に、災害時相互協定を締結している自治体間での相互の防災力向上を推進する取組として、自治体スクラム支援の仕組みを構築しています。

また、平成30(2018)年3月には、全国初となる自治体間連携による特養である「エクレシア南伊豆」を静岡県南伊豆町に開設しました。

みどり豊かな
住まいのみやこ

「杉並区が目指すまちの姿」ロゴ



エクレシア南伊豆
南伊豆町及び静岡県との連携による特別養護老人ホームを静岡県南伊豆町に開設しました。